

Fuji Champion Race Series Round 3

2019.8.31 SAT - 9.1 sun

86&BRZ/8Beat
Round 2



FCR第3戦最初のレースとなるこのクラス。土曜日朝の予選でポールポジションを獲得したのは8BEAT JP-2R 55 AUTOFACTORY86 たしろじゅんで2'01.271。フロントローには同じJP-2R 99 プロコンポジットBLITZ86 古田聡が2'02.952で並ぶ。86&BRZクラスのトップは総合4番手の54 86Racer's土山号 土山哲史が2'04.075。11:20、決勝レースではスタート直後の混戦の中、55たしろがトップのまま、TGRコーナーをクリアしていく。86&BRZクラスの争いも2コーナーでクラス2番手、総合7番手スタートの57 86Racer's 桂号 桂涼が土山をパスして前に出る。総合トップの55 たしろはコンスタントに後続車との間隔を広げていき、10週の決勝はトップでチェッカーを受けた。86&BRZのトップ争いはその後、間に8Beatクラスも挟んだこともあったが、終盤ではこの2台がコマ差の争いになってきて、0.8秒差で57 桂が先にチェッカーを受けた。決勝終了後57 桂は「優勝は初めてでとても嬉しい。トップに立ったものの最後は近づかれてしまい、ヒヤヒヤしながら走ってました」とコメント



86&BRZ



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	57 桂 涼
2	54 土山 哲史
3	3 西山 隆
4	222 松下 浩平
5	31 福田 憲司

8Beat 2S



RESULT リザルト 8Beat 2S

Rank No.	Name
1	77 広瀬 安浩
2	750 鍛冶田 昇

8Beat 3S



RESULT リザルト 8Beat 3S

Rank No.	Name
1	313 綾野 興
2	44 小林 純矢
3	1 木幡 修一郎
4	2 荒木 丈晴
5	06 坂本 猛彦

8Beat 2R



RESULT リザルト 8Beat 2R

Rank No.	Name
1	55 たしろ じゅん
2	99 古田 聡

8Beat 4S



RESULT リザルト 8Beat 4S

Rank No.	Name
1	34 常盤 岳史
2	21 高月 瑠偉

FCR-VITA Round 2



土曜日朝の予選では、曇り空で所々雨が落ちる天候だったが、路面はほぼドライの状態で行われた。今回は25台がエントリー。2'01.068のトップタイムを出したのは開幕戦優勝の32 ガレージビーフラットVITA 武村和希。2番手タイムは2 ワークスEDニルズMPR イノウエケイイチの2'01.558。3番手に今回初参加の37 KeePer VITA 翁長実希が2'01.717で続く。12:30スタートの決勝レース開始時は雲の間から晴れ間もぞく天候になってきた。スタートして先頭集団は綺麗にオープニングラップを抜けたものの中段グループで数台の接触。32武村はトップを快走するが、その後ろでは2イノウエと4番手グリッドから上がってきた28 AEON MALL VITA 山田遼が終始2位争いを続ける。後半になるとその後の集団も加わり、気の抜けない2位争いが続き9周目には28山田が前に出るもラストストップで2イノウエが抜き返し、10週の決勝は32 武村、2 イノウエ、28 山田の順でチェッカーを受けた。レース後32 武村は「連勝できて嬉しいです。ポールからのスタートで、いつもはスタート、大丈夫なんです。が、今回はちょっとミスしてしまいました。次回からはキッチリ決めたいと思います」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	32 武村 和希
2	2 イノウエ ケイイチ
3	28 山田 遼
4	21 いむら せいじ
5	522 福岡 宝昌
6	36 村松 日向子

KYOJO-CUP Round 2



第2戦を迎えたKYOJO CUP。今回は初参加のドライバーも数人おり、香港から参加のYEUNG Deniseも初めての富士を走る。予選でトップになったのが初参加、カートからS-FJで活躍している村松日向子が昨年までのチャンピオンマシン 36 KNCVITAに乗り、2'01.690でポールポジションを獲得。2番手にはこちらも沖縄から初参加の37 KeePer VITA 翁長実希。路面温度は42度にまで上がってきた。オープニングラップは36村松が守り2番手に上がったのは前回優勝ドライバー、ベテランの86 CF亜依★制動屋★44VITA 小泉亜依。しかし2周目には37 翁長がそのポジションを奪い返す。その後もトップ3台、コンマ差のバトルで3周目には37 翁長が一瞬をついてトップに立つ。36村松、86小泉も何度も並びかけたが10週の決勝レースは37 翁長が最初にチェッカーを受けた。初出場ながら激しい戦いを制した37 翁長はレース終了後「夢みたいですね。まだフワフワした気持ちです。沖縄でジムカーナとかカートなどやっていますが、レースは初めて」と話し、惜しくも2位になった36村松は「今までで一番悔しいレース、前に行かれてしまった後も何とか狙っていましたが届きませんでした」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	37 翁長 実希
2	36 村松 日向子
3	86 小泉 亜依
4	49 荻原 友美
5	31 池島 美紅
6	48 星七 麻衣

N1500/N1400/N1000

Audi A1 Fun Cup

Round 2



土曜日午前中の予選でポールポジションを獲得したのは、N1400クラス5 アネックス内藤銀金EP82 水谷明彦、2'11,020。N1500は19 Vitz NCP91 犬飼祐揮。Audi A1では102 東京IRC Audi A1 イシカワヨシオ 2'15.463。N1000クラスでは28 ALPHA IDI ヴィッツ立河元基の2'19.896。このカテゴリーはどのクラスも毎回接戦だが、今回も上位メンバーでの接戦が予想される。16:00、土曜日最後の決勝となる頃には気温26.5度、路面温度34度というコンディション。先ほどまでは所々で小雨が落ちていたようだが、晴れ間も出てきた。決勝ではやはりスタート直後からの激しいトップ争いが各クラス続く。

Audi A1の102イシカワだけが2位以下に少しマージンを開けるが他のクラスは最終ラップまでバトルが続き、コンマ差で最初にチェッカーを受けたのはN1400 72 アレスQSグローバルμ82 高橋ノボルだった。各クラス優勝ドライバーのコメントN1400 72 高橋「とにかくみんなガードが固くて！8周目にも仕掛けたけれど届かずで、最終ラップにかけました」Audi A1 イシカワ「予選より決勝のほうがマシンの調子が良かったです。この調子で頑張ってシリーズチャンピオンを狙います」N1000 28 立河「暑かった！でも良いレースが出来ました。このままシリーズチャンピオンを狙っていきます」

N1400



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	72 高橋 ノボル
2	21 大竹 直
3	5 水谷 明彦
4	26 斎藤 和実
5	3 山田 大輔
6	92 勝間田 邦彦

N1000



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	28 立河 元基
2	2 あおき みのる
3	49 菅野 良男
4	27 山崎 仁
5	32 大石 進哉

Audi A1 Fun Cup



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	102 イシカワヨシオ
2	107 橋本 泰一
3	101 斎藤 浩徳
4	110 荒川 美恵子
5	104 風間 俊雄
6	111 阿野 雅樹

ROADSTER CUP 1.5/1.6/1.8/2.0 Round 2



こちら第2戦を迎えたRSC。日曜朝の予選でトップタイムを出し、ポールポジションを決めたのはRSC1.8 777 RSPT佐藤商会ロードスター 山内正義 2'08.676。2.0OPクラストップは総合5番手の1 Joy☆アクレMoty'sRS 高橋裕史 2'10.234。1.6クラスは総合9番手で76 辻本運送アクレNA6 辻本均 2'11.077。1.5CHクラスは103 密林雲ロードスター 松尾康博 2'15.837。11:10スタートの決勝ではスタートを決めた777山内がトップで1コーナーに。その後ろでは2位争いとなるが、レース中盤からは3位争いを後目にトップの777山内と2番手の11 JoyアクレMotys☆SPT 池島実紅が等間隔になりその後ろで3位争いが続き8周のレースはそのポジションで終了した。

各クラス優勝ドライバーのコメントは1.6 76 辻本「暑さとの闘いでしたね。自分の体力が持つかどうか？と、もう少し夏の間に鍛えておかないとね」1.8 777 山内「4年ぶりのレースでした。以前は86とかに乗っていましたがこのロードスターは乗りやすかったです。今回はスポット参戦でしたが残りも機会があったら乗りたいです」1.5CH 103松尾「スタートはトップだったのですが、シフトミスをしてしまい抜かれてしまいました。抜き返すチャンスを狙い最終ラップでなんとか奪い返しました」2.0OP 1 高橋「前回表彰台を逃したので今回は絶対に勝ちたかったから嬉しい！」



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	76 辻本 均
2	34 竹田 幸一郎
3	27 野木 強
4	2 渡邊 達也
5	73 高橋 功典



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	777 山内 正義
2	11 池島 実紅
3	84 大矢 明夫
4	91 神谷 誠
5	35 須藤 裕輝
6	15 中村 英貴



RESULT リザルト 1.5チャレンジ

Rank No.	Name
1	103 松尾 康博
2	32 原嶋 昭弘
3	28 藤吉 健一
4	20 五賀 貴男
5	69 太田 恭之
6	5 山崎 善健



RESULT リザルト 2.0オープン

Rank No.	Name
1	1 高橋 裕史
2	77 長岡 哲也
3	16 横山 護

2019 インタープロトシリーズ 第3戦・第4戦 レポート

9.1 sun



インタープロトのジェントルマンクラスは第3戦&第4戦が行われた土曜日の午前中に行われた予選では第3戦のグリッドが決まる。トップタイムを出したのは、昨年まで KYOJOとFCR-VITAで圧勝を続けてきた73 キーパー号に乗る73 小山美姫の1'47.473。フロントローには32 NETZ NOVEL MIE 永井秀貴が1'48.492と並ぶ。3番手にはGenクラストップの96 岡山トヨペット K-tunes 末長一範。CCS-Rでは51 P.MU RACING CCS-R 土部治久が1'54.384でトップからのスタートとなった。13:30の決勝スタート時には気温27.5度、路面温度40度だが、かなり蒸し暑い。その中スタートが切れ、ボールの37小山は前半から後続を徐々に引き離し、逃げ切り体制に。後方では随所でバトルがあるものの、37小山は最終ラップまでファステストを更新しながら12週のレースをポールトゥウィンを飾った。各クラス優勝のドライバーは37 小山「タイヤのことを考えながら走りました。最終ラップのファステストは狙いました」Genクラス96 末長「予選から良いペースでした前の二人についていこうとしましたがそこはなかなか・・・」CCS-R 51土部「今井さんが手ごわかった！マシンの調子がイマイチなので明日はセットを変えてみようかな」と話していた。

日曜日の決勝は第3戦の結果がグリッドポジションになる。朝9:15に決勝スタートが切れ、やはり73 小山が逃げる体制になってきたが、その73小山に7周目、スタート手順違反でドライブスルーペナルティが課せられた。8周目にペナルティをこなした小山は総合3番手でコースに復活し、その後もファステストをたたき出しながら猛追するも12週の決勝は32永井が優勝した。レース後32永井は「昨夜、セットを変えてもらってタイムが縮まった。技術的に負けているのは悔しいけれど、チームからとにかく完走して少しでもポイントをとと言われていたので優勝できたのは嬉しいです」Genクラス優勝の96 末長「マシンセッティングも決まってきた、良いレースができました」CCS-R 51 土部「並ばれる回数が昨日より少し減ったので、セットアップの方向が少し良い方向になったのかも」と語った。

Round 3

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	73 小山 美姫
2	32 永井 秀貴

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	96 末長 一範
2	3 大蔵 峰樹
3	55 虫谷 泰典
4	37 八木 常治
5	44 横井 克一郎
6	25 高橋 昭夫

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	51 土部 治久
2	5 今井 孝
3	10 天野 雅仁
4	87 疋田 亮
5	28 古谷 英明

Round 4

IPS-Expert



RESULT リザルト IPS-E

Rank No.	Name
1	32 永井 秀貴
2	73 小山 美姫
3	16 渡邊 久和

IPS-Gentleman



RESULT リザルト IPS-G

Rank No.	Name
1	96 末長 一範
2	7 とおる君
3	55 虫谷 泰典
4	25 高橋 昭夫
5	37 八木 常治
6	3 大蔵 峰樹

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	51 土部 治久
2	5 今井 孝
3	28 古谷 英明
4	87 疋田 亮
5	10 天野 雅仁

Inter Proto Series
Round 3-4
Professional Driver



第3・4戦行われたこのクラス。土曜日の予選で第3戦のグリッドが決まるが、そこでトップタイムを出しポールポジションに獲得したのは、昨シーズン最終戦から出場し優勝を重ねてきた7 J-Gear7 とおる君野尻智紀の1'46.414。フロントローには96 岡山 トヨベツ K-tunes 中山雄一が1'46.508で並ぶ、CCS-Rでは87 NTP RACING NC CCS-R 松井孝允が1'51.122でトップからのスタートとなった。今回の最終レースとなる決勝が日曜日の15:40から第3戦、続いて第4戦が行われた。第3戦決勝ではスタートから接戦は続くも7野尻が終始トップの座を譲らずに9週のレースを勝ち取り、5連勝を遂げている。CCS-Rも87松井が逃げ切った。

続く第4戦でも7野尻が前半はトップを守るが96中山も背後につきチャンスをうかがっている。5周目に、一瞬の隙をつき96 中山がトップ

に立つ。その後ろでは予選6番手からじわじわ上がってきた32 NETZ NOVEL MIE 坪井翔もチャンスを狙っている。9週の決勝は96 中山、32 坪井、7野尻の順でのチェッカーとなった。CCS-Rは87松井が連勝。レース後のコメント7野尻「5連勝から6連勝を狙ったのですが、後半はタイヤがもたなかった。このあたりの使い方は課題ですね」96 中山「坪井君も速いのでなんとか野尻君にくらいついていこうと走りながらチャンスを狙っていました。このマシン、2年間エンジンの調子が今一つ、ようやく原因がわかって直せたので勝てて良かったです」87松井「みんな速くなってきていて、前回までのマシンでは無理かな? と思い、セッティングを少し変えてもらった。山内さんがすぐ後ろにいたので、気の抜けないレースでした」

Round 3

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	7 野尻 智紀
2	96 中山 雄一
3	32 坪井 翔
4	37 阪口 晴南
5	73 福住 仁額
6	25 松田 次生

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	10 山内 英輝
3	5 阪口 良平
4	28 平川 亮
5	51 新田 守男

Round 4

IPS-Professional



RESULT リザルト IPS Pro

Rank No.	Name
1	96 中山 雄一
2	32 坪井 翔
3	7 野尻 智紀
4	37 阪口 晴南
5	73 福住 仁額
6	16 Ronnie QUINTARELLI

CCS-R



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	87 松井 孝允
2	10 山内 英輝
3	5 阪口 良平
4	51 新田 守男
5	28 平川 亮